

学友会だより 11月号

本部会 書記・会計

11月の清陵中

今月は10周年記念式典を始めとし、ベルマーク収集で溜まったもので購入物品を決めたり、1年間仲間と育ててきたサツマイモをついに大学芋に調理したり、清掃週間、音楽会など・・・様々な活動があります。

だんだんと今まで継続的に行ってきた事柄にもゴールが見えてくる時期になりました。こういった様々な活動をする中でも今月の月目標、”Complete～想いを込めて～”を意識して生活しましょう。

音楽会に向けて

音楽会もうすぐ近くです。毎朝、そして放課後多くのクラスから、様々な曲の歌声が聞こえてきて、今の清陵中は音楽で一杯になっています。当日までの残りあと数日私たちの心も音楽会への思いで一杯にしていきましょう！



10周年記念式典

10周年記念式典が11/9（土）にありました。

今回の学友会だよりでは、その中で行われた、パネルディスカッションについてまとめたいと思います。

パネルディスカッションには以下の方にパネラーとして登壇していただきました。

1. 内堀繁利先生（前長野県教育長、現信州大学特任教授）
2. 船城貴大さん（1期生 元学友会長）
3. 清水悠華さん（3期生 元学友会長）
4. 小林雅人さん（8期生 現高校1年生）
5. 玉田穩空さん（9期生 現中学学友会長）

内堀先生：清陵中設立に携わった方

船城さん、清水さん：社会に出るということを体験し、且つ、私たちの知らない時代の清陵中を知る方

小林さん：最近の清陵中と清陵高校の両方を知る方

玉田さん：最近の清陵中を生徒を代表して共有してくださる方

このような理由で以上のパネラーをお呼びしました。

さて、パネラーの方々はどうなことを私達に伝えたかったのでしょうか。

パネルディスカッション中、そして、事前の打ち合わせの際におっしゃっていたことを全ては書き切れないので、一部抜粋してまとめました。

一回きりの式典ですので、しっかりと振り返るとともに、今回の記憶、思いを残し、今後の生活に活かしてください。

パネラーの思い

議論Ⅰ 「清陵中のよさ」

□ 良い仲間、そして環境

清陵特有の授業体系や探究に参加する中で、特に仲間の学力、思考の内容、個性など、小学校、高校ではあまり得られないようなものをとても多く吸収できるというところ。

□ 実践的な探究（授業の際もACの際も）

・深掘りしたい部分には自由にしっかりと向き合わせてくれて、自分が何を好きなのかなっていうところを見せてくれるものであること。

・研究の発表会の堅苦しくない雰囲気や興味深い発表者に集中して回れること。

・面談等での先生のサポートも手厚いところ。

□ 三澤勝衛先生の言葉

「自分の頭で考える」ということを習慣にできる場所。⇒社会に出ると特に、見知らぬ場で予測のできないトラブルに遭遇することがよくある。そういう際に自分で考えて策を立てられるかということは当然のようで実際はかなり難しいこと。これを癖づけられたのは非常に良かった。

□ 清陵中の目指す生徒像

「高い学力」というのは当然つけるべきものだが、特に、「強い意志」「広い視野」というものは、探究を例に挙げると、探究をしているとどうしても他者の協力が必要になるときがあり、それを得るためにも「強い意志」は不可欠である。また、だんだんミクロな視点になってしまう時があるが、一旦マクロな視点（広い視野）に戻って考えてみる、ということが大学生活に入ってから一層大事だと気づいた。それを、中学のうちから目標の1つにおいているのは非常に良いところ。

□ 高校受験という制約がない教育

探究でも、勉強でも必要な知識が、中学範囲では取まらないことがある。清陵中では「受験があるから今はここまででストップね」という形ではなく、自分の興味関心を基に3年間縛られない、自由な学習ができるところがとてもいい。

議論Ⅱ 「清陵中のこれから」

□ 強い学びの実現

高校受験がないため、学習へのモチベーションを保つことができないという声も聞く。だが、受験や定期テストなどのゴールに向けてモチベーションを創るのではなく、自分がこれを学びたいから学ぶというように、自分の中で完結するモチベーションを作ることが、社会に出てからも一層大事になる。中学の頃からそれを意識し、そしてそれができる、全員で意欲をもって現状改善、問題解決に向かっていける環境をみんなで創って行って欲しい。

□ 中高のつながりの強化

接する機会が増えるほど、中高のつながりというものはより強いものになっていくと思う。そのため、現在行っている交流企画や探究活動に加えて、今後はより多くの面でのつながりを持ち、もっと身近な関係になってほしい。

□ 生徒主体の学校運営

生徒が大人と対等に学校を創るという経験は、社会でも役立ち、自分達で自分達を律する力を養えるため、生徒が学校の運営や方向性の設定に参画できる機会を今以上に増やして欲しい。

パネルディスカッションに参加したり、このお便りを読んだりする中で浮かんだ考え・疑問を今回だけで終わらせず、次に”つなぐ”ということ意識してほしいです。読んでいただきありがとうございました。